

国語科 8学年 評価計画

内容のまとまり・単元／観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
広がる学びへ 多様な視点から 情報×SDG s 言葉と向き合う いつも本はそばに 人間のきずな	目標		
	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。	論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
	評価規準		
	・抽象的な概念を表す語句の量を増やすとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。（１）エ ・意見と根拠、具体と抽象など情報と情報の関係について理解している。（２）ア ・本や文章には様々な立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。（３）エ ・言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気付くことができる。（１）ア	・「話すこと」において、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができる。A（１）オ ・「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。B（１）ウ ・「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えることができる。C（１）エ	・粘り強く自分の考えをまとめ、今までの学習を生かして議論しようとしている。 ・積極的に文章の改善点を見だし、学習課題に沿って意見を述べる文章を書こうとしている。 ・粘り強く情報と情報との関係について理解し、学習の見通しをもって考えたことを提案しようとしている。
	評価方法		
	・小テスト ・定期考査 ・作文 等	・小テスト ・定期考査 ・ワークシート ・作文 等	・観察 ・ワークシート ・ノート 等
論理を捉えて いにしえの心を訪ねる 価値を語る いつも本はそばに 表現を見つめる 学びを深める	目標		
	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。	論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
	評価規準		
	・抽象的な概念を表す語句の量を増やすとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。（１）エ ・意見と根拠、具体と抽象など情報と情報の関係について理解している。（２）ア ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。（３）ア ・現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ることができる。（３）イ	・「話すこと」において、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめようとしている。A（１）オ ・「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫しようとしている。B（１）ウ ・「読むこと」において、目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈しようとしている。C（１）ウ ・「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えようとしている。C（１）エ	・粘り強く話や文章の構成や展開についての理解を深め、学習の見通しをもって物語を創作しようとしている。 ・積極的に内容を解釈し、学習課題に沿って理解したことを説明しようとしている。 ・粘り強く登場人物の言動の意味を考え、学習課題に沿って解説しようとしている。 ・粘り強く情報と情報との関係について理解し、学習の見通しをもって考えたことを提案しようとしている。
	評価方法		
	・小テスト ・定期考査 ・作文 等	・小テスト ・定期考査 ・ワークシート ・作文 等	・観察 ・ワークシート ・ノート 等